

2022年度 経営方針

「勝つ集団で社会に必要とされる 持続可能な企業になろう」



当社代表取締役社長
材木正己

今年度は中期経営計画「NITTOSEIKO Mission “G”」の最終年度です。

あるべき姿を目指し、3年間取り組んできた活動の総仕上げの年です。

準備ではなく、すべてにおいて実行あるのみ。経営方針5つの戦略テーマをダイジェストでご紹介します

1 未来を創る「サステナビリティ」～価値創造のサイクルを事業全体に浸透させる～

昨年、サステナビリティ委員会を立ち上げ、当社はすべての企業活動に対して持続可能な環境や社会の実現を前提に考えるサステナビリティ経営を推進しています。従業員全員の共通のテーマとして、ふだんの行動に浸透するまで理解を深め意識を高めていきます。

2 信頼を生む「稼ぎ力」～付加価値と効率化で信頼される企業に～

高水準の収益体質を確立することは企業の信頼性を高めることにつながります。今年度はデジタル化による業務の効率化に加え、生産性向上による「稼ぎ力」への投資も強化していきます。また、サステナビリティに関連した付加価値製品の拡販による「稼ぎ力」にも注力していきます。

3 勝つ集団をつくる「漁業理論」～経験と情報で恒常的に計画し恒常的に実行する～

勝つ集団とは成長戦略を恒常的に実行する集団のこと。有効となるのが「漁業理論」です。釣り人が魚のいるポイント、狙う魚の種類、道具や仕掛け、釣り方、天候や気温を目配りするような細やかな計画と実行が大事。経験と情報による計画と準備で大きな結果が生まれるのです。「漁業理論」を使った計画と実行を継続します。

4 結果に導く「フラグとベクトル」～わかりやすい目標でチームの最適化を目指す～

勝つ集団には正当なフラグ（目標）をリーダーが掲げ、そのフラグを向いて高い志をもって取り組む姿勢、いわゆるベクトルが必要です。そして、ベクトルを維持するために、フラグを掲げたときだけでなく、途中の進捗状況を評価し、到達の見込みや課題などを共有しながら結果につなげるプロセスを大切にしていきます。

5 強みを活かした「ウェルビーイング」～個々の力が発揮され幸せを感じる職場に～

健康経営やワークライフバランスに関する環境の構築は、結果的には生産性を高め、会社の成長にもつながってきました。今後はより一層従業員の声が経営に反映できる体制を整え、心身ともに豊かで幸せを感じるウェルビーイング、そして組織のエンゲージメントの向上を目指していきます。



エンゲージメントの高い組織をめざして 京都工業会主催のセミナーで 当社人事課長が講演

2021年12月3日、京都経済センターで、京都工業会が主催する「モノづくりモチベーションアップ講座～エンゲージメントの高い組織をつくるためには～」が開催されました。

『同調圧力の正体』(PHP新書)などの著者であり同志社大学政策学部教授である太田肇氏が「エンゲージメントを高める組織づくり」という演目で“自発的な意欲”を醸成するための組織づくりを解説されたあとに、当社人事課長の井ノ元美和が、実際の企業内での事例を紹介する形で「日東精工における『絆経営』の取組」をお話させていただきました。「エンゲージメント」とは、仕事や職場に対する深い関わり方のことであり、仕事に対してポジティブで充実している心理状態を指します。ワークライフバランスを考えるうえ



でもキーとなるものです。エンゲージメントの向上には、意欲の発揮を阻害している要因を取り去るとともに、前向きな意欲を引き出す仕組みを取り入れることが大切となります。

当社では持続的な社会を構築していくための施策を随時積極的に取り入れるだけでなく、その成果を多くの方々と共有すべく、ときには従業員が講師となって発信しています。



パワーポイントを使って説明。京都経済センターの会場だけでなくオンラインでの視聴もありのハイブリッド型セミナーでした

日東精工は国連のSDGsの理念に共感しています

日東精工グループ紹介

日東工具販売株式会社 / 大阪

日東工具販売はもともとはねじをつくるパンチやダイブレードなどの工具の販売をメインにしていたのですが、現在はそれに加えて、産機事業部製品や制御システム事業部の地盤調査機「ジオカルテ」などを主に日東精工の全製品を扱う販売代理店です。

日東精工大阪支店内に会社をおき、社員も日東精工のOBと出向者で構成されているので、ひとり一人の製品知識が高いこと、そしていち早く日東精工の情報を得られることが同社の強みです。実際、たとえば産機事業部がユニバーサルロボット社とコラボした新製品のねじ締めユニット「PD400UR」をPRし、すでに「引き合い」を得ています。

「日東精工のネットワークを活用しやすい環境であることも当社の強みです。日東精工の製品を納めているある会社さんから問い合わせをもらい、それはこれまで取り扱いのない製品だったのですが、日東精工のネットワークをフルに活用し、『うちでやれます』と具体的な検討に結びつけることができました。また別の案件では制御システム事業部と生産技術部に協力をお願いしてオリジナル仕様のものに対応するなど、そのつながりから新し

い価値を生み出しています」(入井寛社長)。

入井社長は2021年3月に現役職に就任。コロナ禍でお客様のところに直接営業ができなことで売り上げなどに影響が出ましたが、今後は取り扱い商品や販路の拡大、新規顧客の獲得を目指します。

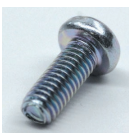
「従来のラインアップでは対応できないような難しいお問い合わせも、それをビジネスチャンスとして生かしています。先日は韓国のメーカーさんと初めて取引を行いました。製品の幅を広げることができ嬉しく思っています。これまでやらなかったことに前向きにどんどんチャレンジしていきたいですね」(入井寛社長)。



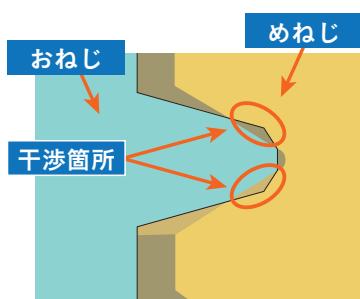
入井寛代表取締役社長。昭和58年日東精工入社。産機事業部や制御システム事業部などで営業担当を38年。2020年10月に日東工具販売へ出向、翌21年3月に社長就任。日東工具販売の営業エリアは西日本のみならず東海、首都圏、東北と全国を網羅している

令和3年度近畿地方発明表彰 「京都発明協会会長賞」を受賞

当社ゆるみ止めねじ「アブスロック」の開発・特許取得に関連し、令和3年度近畿地方発明表彰において「京都発明協会会長賞」を受賞しました。



「アブスロック」の技術的特長は、おねじの谷側と山頂側で角度の異なるねじ山を備える点です。これにより、おねじ部分がめねじに食い込み高いゆるみ止め効果を発揮。従来のようにおねじに接着剤を塗布する必要がなく、溶剤不使用によるコスト低減および環境負荷低減に貢献します。



「アブスロック」について
詳しくはこちら▲

京都府障害者雇用優良事業所等知事表彰 「優良勤労者」を受賞

京都府障害者雇用優良事業所等知事表彰は、障害のある方を積極的に多数雇用している事業所、雇用の促進と職業の安定に著しく貢献した団体又は個人、障害と向き合いながら長く勤務されている個人の方に対する京都府知事表彰です。この表彰の「優良勤労者」を当社産機事業部の内藤清章が受賞しました。内藤は就労定着支援システムSPISのモデル事業に参加したことで、上司や相談員とのコミュニケーションを密にとれるようになり、仕事に対する意識もより高くなりました。



約3年前からは、ねじ締めドライバユニットのセル生産に従事。このねじ締めドライバユニットのセル生産では、ピッキング、組立、検査、出荷準備までの工程を担当しています。同僚との高い仲間意識のもと、当社製品の生産性・品質の向上にも大きく貢献し、職場の一員としてかけがえのない存在となっています



バーチャル展示会で ねじ締めユニットをご紹介!

「協働ロボット」メーカーであるユニバーサルロボット社主催のバーチャル展示会「COLLABORATE-URオンライン展示会 2021



AUTUMN」が、2021年11月29日から12月10日まで開催され、当社の新ねじ締めユニット「PD400UR」も出展しました。「PD400UR」はUR社の協働ロボットに搭載し、ティーチペンダントから簡単に締付設定、セットアップが可能なのです。



「PD400UR」の
製品詳細動画は
こちら▼



日本経済新聞に「ギザタイト」が 大きく取り上げられました

2021年11月18日付の日本経済新聞で、当社の樹脂用ゆるみ止めねじ「ギザタイト」をご紹介いただきました「ネジ 小さく軽く緩まず」という大見出しのもと、電気自動車 (EV) シフトのうねりが自動車部品メーカーに押し寄せるといった切り口で、いくつかのねじメーカー取材した記事です。記者の方には大きな関心をもっていただけたようで、当社代表取締役社長材木正己のコメントが冒頭だけでなく何度か紹介され、またギザタイトの写真だけでなく構造を説明するイラストも掲載していただきました。



紙面では11月18日付関西版に掲載されましたがWeb版ではTOP記事としてより詳しく国内外に発信されました



フーテンの寅さんから「学び」の大切さを知る

今

年の干支にちなんで「寅」にまつわる話です。

かつて国民的映画として大
人気だった『男はつらいよ』
の主人公がフーテンの寅さん
でした。私も寅年生まれなの
で寅さんに親近感を覚えます。

この映画シリーズ48作のな
かにはじつは名言がたくさん
散りばめられています。寅さ
んは学問に対するコンプレッ
クスをもっているのですが、
一方で「おまえ、さしずめイ
ンテリだな」といって頭でっ
かちで中途半端な似非インテ
リをバカにして嫌いました。
難しい言葉は使わないけれど、
ストンと腑におちることをた
まに口にするのです。

たとえば寅さんは甥っ子の
満男に「人間はなんのために
生きているのか」と問いかけ
られます。哲学の根源のよう
な、なかなか難しい質問です。
寅さんは「難しいことを聞く
なあ、おまえは。なんという
かな、あく生まれきてよか
った……そう思うことが何べ

んかあるだろう。そのために
生きてんじゃねえか」と単刀
直入、明快に回答します。な
かなかこんなふうには答えら
れるものではありませんね
(第39作「寅次郎物語」)。

あるいはやはり満男との会
話です。「なんのために大学
に行くのかなあ」「じゃあな
んのために勉強するのかな
あ」と質問されます。それに
対しても「人間、長い間生き
ていりゃあ、いろいろなこと
にぶつかるだろう。そんなと
き俺みたいに勉強していな
奴は、この振ったサイコロの
目で決めるとか、そのときの
気分で決めるよりしようがな
い。ところが勉強した奴は、
自分の頭できちんと筋道立
て、はて、このときはどうし
たらいいかと考えることがで
きるんだ」と学ぶ本質をズバ
ツと口にするのです(第40作
『寅次郎サラダ記念日』)。

☆

「学び」は大事ですが、それ
はいい学校に入り、いい就職

口を見つければ、いい給料をもら
うため、自分のためだけにと
いうものではなく、「学び」
を他者のため社会のためにつ
なげることがさらに大事。学
んだことを生かしてこそ、は
じめて真の学びになるのです。
そのことが寅さんがよく口に
する「お天道様がいつも見て
いる」にもつながります。

当社は創業以来、社員の
「学び」に力を入れてきまし
た。また社内の人間だけでな
く、地域の若い人を対象にし
た奨学金制度などさまざまな
施策を用意しています。8年
前からは受験生応援ゆるみ止

めねじプレゼントキャンペーン
を始めており、今年も既に
たくさんのご応募をいただい
ています。

いくつになっても「学び」
は大事。当社ではこれからも
学ぼうとする人を応援し、学
びの場を設けていきたいと思
っています。



受験生応援ゆるみ止めねじキャンペーン
本年度第3回(最終回)の受付は2月1日
からです

連載④

あやべ ちょっと寄り道

ことばの泉・ねじ文庫

日東精工が本社をおくあやべに「ことば
の泉・ねじ文庫」が仮オープン。当社の
人財教育に携わった経営コンサルタント
・故蒲田春樹氏の蔵書を中心に約5000点
の書籍などのほか、ねじの絵本やねじの
おもちゃなどねじ関連グッズや書籍を少
しずつ揃えていく予定だそうです。昭和
40年代のレトロな真空管ステレオもあ
り、小さなスペースですが癒しの空間。
「つながり」をキーワードにした新しい
スポットが綾部
市役所徒歩1分
のところで誕生
します。



一軒家を文庫に活用

